

はじめに

医療法人康陽会 花牟禮病院院長 花牟禮康生

鹿児島県いちき串木野市にある花牟禮病院は、今から約百年前、私の祖父が開業いたしました。私は、1992年に副院長として勤務して以来毎日、この病院、この街で、患者さんの診察を行っています。

地域に根差した医療機関として院内での診察や訪問診察を行い、そのあとの時間で、がん患者さんの電話相談を行っています。電話相談は、通常一人30分程度を目安としておりますが、時と場合によっては1時間以上に及ぶこともあります。

私がこの電話相談を始めるようになったきっかけは、実父をはじめ3人の身内をがんで亡くしたことです。この経験があるからこそ、がん宣告を受けた患者さんやご家族の切実な思いがわかります。とりわけ、「もう治療の手立てがありません」と西洋医療に見放さ



一日の診察が終わるのは、だいたい午後6時頃。電話相談の時間は、その後から始まる。

れた患者さんやご家族の方の気持ちは、筆舌に尽くしがたいでしょう。どのような方法でもよいから、可能性のある治療はすべて試みてみたいという必死な思い。しかし、その思いを正面から受け止め、西洋医療に限らない具体的な治療法を提供してあげられる医師は、現在の日本においてまだ少ないのが現実です。

本書では、私が受けた電話相談のうち、余命宣告を受けたがん患者さん及び家族の方からの相談実録を中心に記載いたしました。それに付随し、全国の様々な医師たちから寄せられた余命宣告を受けたがん患者さんの治療実例を記載いたしました。

がんと闘っている方たち、主治医に余命宣告をされ途方に暮れている方たち、それでもなお「奇跡」を信じて何かをしようとしている方たちに、勇気やヒントを与えられることを心から願います。

方のリンパ節を全摘出した80代女性の癌理の娘さんからの相談。抗がん剤による治療が出来ず、在宅療養を行う予定でいるが、どんなことをしていけばいいか、どんな情報を活用すればよいかかわからないとの相談。

福岡県大野城市 喜多村クリニック 喜多村邦弘院長からの症例報告……………149

（余命宣告を覆した患者Dさん（虫垂がん・子宮がん）の実例）

【対談】 余命宣告について……………158

医療法人康陽会 花牟禮病院院長 医学博士 花牟禮康生

元（財）癌研究会癌研究所所長 医学博士 堂福隆一先生

喜多村クリニック院長 医学博士 喜多村邦弘先生

― 抗がん剤をめぐる現実

― がん患者を待たせる現状

― 余命宣告はナンセンス

― 医師側の問題と患者側の問題

― 予防医学の重要性

- 第3話 余命宣告を受けた「がん難民」たち……76
- 第4話 統合医療が「がん難民」を救う……81
- 第5話 低分子化フコイダンは、なぜ効くのか……91

電話相談実録その④……………120

患者さんは、50代後半の男性、奥様からの相談。2週間前に、進行性の胃がんであることがわかり、リンパへの転移もみられ、1年はもたないだろうという宣告を受ける。すぐに抗がん剤治療を始めたが、副作用がきつく、何も食べられない状態でこのままでは体力的にもたない不安があり、出来る限り様々な治療を試してみたいと思っっている。

TS-1と低分子化フコイダンの併用による快復症例―花牟禮病院―……………131

北海道札幌市 癒しの森消化器内科クリニック 小井戸一光院長からの症例報告……………132

札幌がんフオレスト

〈余命宣告を覆した患者Cさん（虫庫がん）の実例〉

電話相談実録その⑤……………140

1週間前に、B細胞型リンパ腫（リンパ節がん）との診断と、余命3ヵ月との宣告を受け、左右両

電話相談実録その②……………38

乳がんを宣告され、左右両方を全摘出した60代女性。本人からの相談。手術後、本人は抗がん剤治療を拒否し、他の治療法を選択したいと主治医に告げたところ、「抗がん剤をやらないなら、（あなたの命は）終わりだ」と言われる。抗がん剤以外の治療法ではダメなのか、という相談。

電話相談実録その③……………47

乳がんが見つかり、がんセンターで手術を受けた女性。本人からの相談。前述の相談者同様、手術後、抗がん剤治療を主治医から勧められるが、本人は副作用を心配。抗がん剤の副作用を軽減する効果があるフコイダンを用いて知ったの相談。

大阪府大阪市 吉田医院 吉田年宏 院長からの症例報告……………51

〈余命宣告を覆した患者Bさん（末期乳癌がん）の実例〉

【寄稿】低分子化フコイダン最新研究報告 九州大学大学院教授 白畑實隆……………58

第1話 ある「奇跡」との出会い……………64

第2話 がんについてわかっていること……………67

がん治療の新しい常識

余命宣告を覆した医師たちの証言と実例

医療法人康陽会 花牟禮病院院長 花牟禮康生

目次

はじめに……………3

今、がんと闘っている方へ……………12

肺腺がんによる余命宣告を受けた義母の快復症例―花牟禮病院―……………19

電話相談実録その①……………20

患者さんは、肺がんで余命宣告を受けた60代後半の女性。娘さんからの相談。左肺にがんが見つかり、同時に肺がんへの転移も見つかる。S市の病院に入院し抗がん剤と放射線治療を受けてきたが、主治医より「もう治療のしようがない」と告げられる。

沖縄県宜野湾市

統合医療センター
クリニックぎのわん

天願勇院長からの症例報告……………31

〈余命宣告を覆した患者Aさん（末期肺腺がん）の実例〉